

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域に密着した医療と心あたたかい看護・介護をめざす」を基本理念としている。又全体調整会議(月1回)、運営会議(週1回)で取り上げている。	○
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	GH会議、スタッフ会議等で話し合い取り組んでいる。	○ 施設内の随所に掲示したカレンダーにも運営理念を明示している。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	事業所の理念を記載した便りの発行、ホームパーティー、家族会を開催し、理解してもらえよう取り組んでいる。	○ 年4回便りに記載し、家族、行政、福祉関係者及び理事、評議員に配布している。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域のクラブ活動に参加している。散歩途中に立寄ってもらっている。職員は地域の行事に参加している。	○ 節分、花見、町内花火大会、地域運動会など、近隣の方との付き合いを大切にしている。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者が地域の行事に参加している。	○ 人形展、春まつり、花火大会、運動会、菊花店などに出かけている。

グループホームわたしの親元

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	夏まつりの実施、ゲートボール大会などの実施を行なっている。	○	事業所や職員が地域の方と家族会、ボランティアなど協力を得ながら実施している。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	自己評価及び外部評価の意義を職員に説明し、評価の内容によりサービスの改善に取り組んでいる。	○	評価の内容を受け止め、スタッフで話し合い改善に努めている。
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>			
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	各事業所のケアマネージャーとの連携を図り、情報交換に努めている。	○	
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	事業所内に掲示し、啓発している。	○	
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	管理者及び職員は、虐待防止について話し合い、見過ごされることがないように注意している。	○	

グループホームわたしの親元

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時には、契約書及び重要事項説明書を基に文書で示し十分に説明をしている。	○	家族会総会を開催し、十分説明し理解を得ている。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見、不満、苦情を聞き、又家族を通して尋ねるようにしている。	○	意思表示が出来にくい利用者も職員が常に観察するようにしている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	便りを年4回、家族へのお手紙を毎月、預り金の報告は随時行っている。	○	家族への手紙は、それぞれ利用者の1ヵ月の様子等を知らせ、又電話での報告も随時行っている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者委員会、家族会総会の場や苦情ボックスの設置をして家族等の意見を受け入れ運営に反映している。	○	今後も苦情窓口や家族の面会時に職員が尋ねコミュニケーションを図っていく。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回運営者、管理者を交えたグループホーム会議を開催し、意見を聴いている。	○	会議の中で職員の意見を聞き、反映に努めている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	急を要する勤務変更にも、連絡網にて各自が理解し合い、手助けしながら柔軟な対応に努めている。	○	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	施設の運営方針により異動はあるが、利用者の影響に配慮している。	○	異動の場合に多人数は利用者にはダメージを与えやすいので最小限にしている。

グループホームわたしの親元

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修を受ける機会が確実に確保出来ないのが現状であり、働きながらのトレーニングは先輩から後輩へ、管理者から職員へと進めている。</p>	○	月1回の全体調整会で、他部署の研修の報告にて学んでいる。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>退去者が新しく入居した施設等との交流もあり、訪問等を通じてお互いの施設がサービスの質の向上に努めている。</p>	○	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職場内での親睦会の開催や日頃のコミュニケーションや面接など意見を聞き、環境づくりに努めている。</p>	○	忘年会、お花見、バーベキューなど親睦を図っている。
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員の勤務状況及び日頃の努力や実績を把握し、評価している。</p>	○	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>利用前には、契約書及び重要事項説明書にて、利用についての説明を十分に行い、利用者の要望、意見を聞き入れ、納得して利用してもらっている。</p>	○	面接時以外にも気軽に相談、連絡がしやすいよう配慮している。
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>面会時(初期から)入居者の最近の様子等知らせたり、ケアプラン等の説明、又家族からの心配事について相談にのっている。</p>	○	面接時以外にも気軽に相談、連絡がしやすいよう配慮している。

グループホームわたしの親元

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホーム内での生活に支障をきたしてきた時、本人に必要な支援かを検討する。又他のサービスとして特養への入所について提案したり、特養生活相談員との話し合いの場を設ける。	○	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が納得できるよう自宅で使っていた家具等を持ち込んだり、家族の協力を求めている。	○	家族と外出、外泊をして徐々に馴染めるように本人の不安を取り除けるように努めている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と一緒に過ごす時間を多く持ち、支え合える関係を築いている。	○	洗濯物干し、洗濯たたみ、食材の皮むき、山菜狩など共に支え合い利用者から教わっている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事等の案内をし、家族と共にホームパーティーを開いて共に楽しんでいる。	○	夏まつり、クリスマス会等、家族と一緒に過ごし、年1回のホームパーティーは楽しみの1つである。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の面会時や本人の家族への思いを日常の中で理解できるように努めている。	○	電話の取りつぎやお便り等で、より良い家族と本人の関係を支援している。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人と出会うことやドライブなどで地域をめぐっている。	○	デイサービスの通所の方や買い物の道中に住居していた近くを通る。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者が孤独を感じないよう、それぞれが関わりをもって支援している。	○	当番を作ったり、役割を分担している。

グループホームわたしの親元

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	時々手紙や年賀状、電話をしている。	○	特養に入所した利用者は、時々様子を見に行ったり、行事等で声を掛けている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意思を尋ね、その都度対応出来るように努めている。	○	買い物や行きたい場所、食べたい物など、日常の会話の中でつかんでいる。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族やケアマネージャー等から情報を得ている。	○	入居時に関係機関より情報を収集し、本人の話もよく聞き取ってる。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	勤務時はもちろん、引継や介護・業務日誌、ケース記録等で把握。バイタルチェックでも把握している。	○	それぞれスタッフが利用者の状態を観察している。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者により良く暮らして頂く為に、本人や家族に意見を聞きながらスタッフと話し合い介護計画を作成している。	○	面会時などに家族との話し合いをして意見を聞いている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的にモニタリングをして状態変化時は随時行っている。	○	状態変化時には、家族に電話して話し合っている。

グループホームわたしの親元

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌に記録し、ケース観察を記録し実践に生かしている。	○	日々の一人ひとりの特徴や変化を具体的に記録している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	介護老人福祉施設のバックアップ、協力医療機関等があり、共に協力している。	○	介護老人福祉施設の診療所との連携をとっている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域のつながりとして、民生児童委員の定期的な訪問があり、訪れた方々と地元の話を楽しんでいる。又町内の文化祭に作品を展示したり出向くなどの支援をしている。	○	民生児童委員訪問や文化祭見学、地域資源を活用している。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて、事業所間での情報を交換し、本人に適したサービスを利用できるように支援している。	○	利用者の状態に応じて特養との情報交換に努めている。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している			
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が選んだかかりつけ医を受診し、相互の情報交換を行っている。	○	受診時には、家族に情報を提供し、受診後には医師の指示や説明の引継ぎをうけ、必要に応じて医療機関に問い合わせをしている。

グループホームわたしの親元

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	内科、精神科の受診を定期的に行い、治療、助言を受けている。	○	利用者の受診時には、スタッフが一緒に付き添い、Dr.に相談している。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	特養医務室の看護師に相談し、協力を得ている。	○	受診等で、いつも看護師が支援している。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	協力病院との連携を図り、症状の把握に努めている。	○	入院中は、スタッフが様子を見に行き、家族、病院と一緒に連携をとっている。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度にならない段階から家族や本人に今後の方針を話し合っている。	○	ホーム内では終末期のケアはハード面での受入が困難な点等、十分に家族等に説明をしている。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ホーム内での生活の限界を見極めながら、家族、かかりつけ医と今後のことを検討している。	○	出来るだけ長くホームで暮らしてほしいとスタッフは望んでいるが、危険を伴う場合もあり、十分な話し合いと理解を得ている。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	環境の変化により、ダメージを受けないよう配慮している。	○	十分な話し合いの上で情報を交換し、本人、家族に共にダメージの防止に努めている。

グループホームわたしの親元

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	スタッフはプライバシーを守り、人格を尊重した言葉かけをし、個人情報の取り扱いに注意している。	○ 利用者のプライバシーを守るよう日頃から心掛けている。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の思いや希望が表せるようにスタッフが働きかけ、自己決定が出来るように支援している。	○ 日常生活の中で、利用者の思いをくみ取れるよう心掛けている。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	規則正しい生活をベースに、その日によって異なる利用者の状態に応じて過ごしてもらっている。	○ 日々の生活の中で、利用者がしたいことがその日より違ったり、体調の変化によっても柔軟に対応している。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	家族の協力とスタッフと個別に外出している。	○ 家族と行きつけの美容院に行ったり、好きな服を買いにスタッフと出かけている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを書き出したり、好きな食べ物を聞いたり、調理を一部手伝っている。	○ 食材の皮むきを手伝ってもらったり、テーブルを拭いて食事の準備を利用者と一緒に行っている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	コーヒーは毎日、午前・午後のおやつ、行事メニューによりビール、ジュースの希望を聞いている。	○ おやつ等はスタッフと利用者が共に買い物に行き、好みの物を買っている。食事メニューを変更して食べたい物を聞いている。

グループホームわたしの親元

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとり排泄のパターンが異なり、その人に合わせた介助を行っている。	○	排泄の間隔をスタッフは把握しており、失敗を防ぐよう声かけし誘導している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	少人数ずつ入浴し、色々な入浴剤を使用してゆっくり楽しんでもらっている。	○	窓の外は景観も良く風景も楽しみながら入浴してもらっている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠パターンを把握し、夜眠れない方は一日の生活リズムづくりを通した安眠対策を行っている。	○	日中は出来るだけ活動的に行動するように働きかけている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	過去の生活歴等で、その人の楽しみごとややりたい事、したくないことを把握した上で支援している。	○	個人の趣味や生きがいを理解し、縫い物、塗り絵、貼り絵、草引き、ゴミ出し、ドライブ、散歩など楽しみを持ってもらっている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る方は、小遣い程度の額を自分で管理し、出来ない方は、職員が管理している。	○	
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩に出かけたり、定期的に食事会を兼ねた外出、買い物に出かけている。	○	月1回の食事会、地域の行事、買い物、ドライブに出かけている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人や家族から把握し、実現するよう支援する。	○	お墓参りや法事、家族旅行、子供の家などに出かけている。

グループホームわたしの親元

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取りつぎ、手紙のやりとりの支援をしている。	○	家族から電話がかかってくるので取りついたり、本人からかけるため介助している。手紙の宛名書きや代筆をしている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族はもちろん、知人、友人が訪ねてくると、自分の部屋でゆっくり過ごしてもらっている。	○	自分の部屋でお茶を飲みながらゆっくりと過ごしている。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は基本的に行なっておらず、職員も把握している。	○	
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が外に出たい時は付き添い、一緒に行動している。	○	
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はリビングやお部屋で過ごしてもらっているが、随時様子を把握し、所在確認をしている。	○	利用者の様子をスタッフが常に観察している。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	認知症の状態は一人ひとり異なるため、危険と思われるものは設置場所を工夫するなど配慮している。	○	利用者の行動を把握し、スタッフが日々見守っている。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者の状態により、考えられる事故を話し合い、防止に努めている。	○	

グループホームわたしの親元

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	利用者の急変、事故発生時はスタッフが応急手当ができるよう取り組んでいる。	○	特養の看護師と連携を図り、万々に備えている。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回(1回は夜間想定)の避難訓練を行なっている。消防団とも連携をとり協力を得ている。	○	台風等も地域の消防団が巡回に廻ってきている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者の起こりうるリスクについては、家族に説明し対策を話し合っている。	○	危険な状態である場合は、家族に連絡し、相談している。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者の状態に変化がみられた時は、その都度家族に連絡を入れ、対応の相談をしている。	○	異変が見られた時は、連絡し、必要に応じて来て頂き相談している。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりが医師の指示どおり服薬できるよう支援し、病状の変化を把握している。	○	薬の目的等の一覧表でスタッフは周知し、服薬管理を行なっている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	スタッフは、利用者の排便の周期を把握し、水分補給や栄養バランス、運動等に取り組んでいる。	○	利用者の排便チェック表により把握し、医師と相談の上、排便コントロールを行なっている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	利用者の自立度により、口腔ケアの介助を行なっている。	○	夕食後の義歯洗浄やうがい薬を準備してうがいを行っている。週2回義歯洗浄剤にて洗浄を行なっている。

グループホームわたしの親元

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの状態に応じて、又体調に合わせた食事を提供している。	○	口腔内の状態や糖尿病、体調不良など、その人に合った状態をスタッフは把握した上で支援している。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ予防接種は利用者、スタッフ全員が行い、その他の感染症については、関連機関の助言や行政機関の予防マニュアルに沿って施設全体で取り組んでいる。	○	ノロウイルスの予防として、手洗い・うがいの施行、共有部分の消毒などスタッフが取り組んでいる。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理場は常に衛生を心がけ、調理器具は消毒をしている。食材も安全な物を仕入れている。	○	調理に携わる職員及び利用者は、常に手洗いを徹底し、食中毒防止に心掛けている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は常に清掃し、季節の花を植える等、訪問者を気持ちよく迎えらる工夫をしている。	○	利用者と共に毎日の掃除や花植えを行なっている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花が咲き、廊下には利用者自身が作った作品が掲示されるなど生活感の中に季節を感じ取れるよう工夫している。	○	利用者と共に季節の作品を作ったり、花を植えている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルでみんなで過ごせたり、別に掘りごたつのスペースを設けて気の合った利用者同士で自由に使ってもらっている。単独のソファで独りになることも出来るよう配慮している。	○	

グループホームわたしの親元

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に家族や本人とよく話し合い、本人の持っていきたい物等を尋ね、使い慣れた物、大事にしている物で居心地よく過ごせるようにしている。	○	タンス、鏡台、布団、テレビ、コタツなどを置き、慣れた物で落ち着いて過ごしてもらっている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	ホーム内の各所に換気扇があり、リビング、廊下、居室にはエアコンを設置。必要に応じて温度調整、換気を行なっている。	○	各居室は本人の希望や体調に合わせて配慮している。リビングには加湿器も使用している。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援を図るため、身体機能が活かせるよう工夫している。	○	廊下や浴室には手すりを設置し、見守りながら自力歩行、入浴を支援している。又サンルームには洗濯物や布団を干せるようにしている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個人差はあっても、出来る事、出来そうな事については手や口を出さずに極力見守ったりスタッフと一緒にこなうようにしている。	○	朝の掃除、食材運び、山菜採り、洗濯物干し・たたみ等、その人の能力に合わせて支援している。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭にベンチを設置、周囲に季節の花や植物を植え、自然環境も良く、利用者は外で過ごすことも多い。	○	レクリエーションや草引き、落ち葉拾いや日向ぼっこ等四季を通じて変化が感じとれ、利用者も楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

グループホームわたしの親元

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)